

日本医学教育学会第32回大会：東北大学医学部（2000年）^{*1}

佐々木 毅^{*2}

第32回日本医学教育学会は久道茂東北大学医学部長を会長として平成12年7月26, 27日に仙台の仙台戦災復興記念館にて開催された。大会参加者は425名（内学生参加者は38名）であった。本大会は、「21世紀への医学教育」を基調テーマとし、特別講演2題、シンポジウム2題、パネルディスカッション2題、ワークショップ3題、要望および一般演題149題について講演、発表がなされた。

本大会では新時代に対応しうる良医の育成に関する問題と合わせ、大学に必要とされる研究的姿勢と医学教育のあり方をメインテーマとして討論した。特別講演Ⅰ、Ⅱとしては、高久自治医科大学長に「21世紀の医学・医療」、布村文部省医学教育課長に「これからの医学教育」として提示していただいた。出席者よりは、「長期的観点と共に明日の教育を具体的に展望しうる医学教育の方向性が理解しえた」（アンケートより）とされた。近年、医学は諸分野で著しく進歩しており、生命科学はその代表とされる。ここでは科学の進歩と生命の関連など、根源的な問題に直面しており、この点につきシンポジウムⅠ「生命科学と医学教育」として、この領域の医学教育でのあり方を求めた。シンポジウムⅡでは「良医」育成をめざした卒前より卒後に連動する臨床研修のあり方について各界よりの立場にて討論された。文部、厚生省より、さらに『アメリカの医学教育』執筆者赤津晴子氏も参加され、参加者は問題点を理解しえたと思われる。また、パネルディスカッションⅠとして、本学会が提唱してきた「医学教育センター」の設立に向けて、パネルⅡとしては医師に

適した人材確保のための入試について熱の込められた討論がなされた。ワークショップは、テュートリアル・クリニカルクラクシップ、Evidence-based medicineに基づく教育技法について、体験する形式で行われた。これは本学会の特徴の1つであり、各コーディネーターの入念な準備のもとに施行され、参加者による評価スコアも5点満点で4点以上と大きな充実感が与えられた。

要望演題、一般演題は、149題と前回より6割も増え、卒前および卒後教育法を含めて、どの会場も超満員の状態であった。学生によるプレゼンテーションも目立ち、また、異なる立場よりの発表など、種々の点で意義のある熱心な討論がなされた。今後、ますます発表が増加することが予想され、ポスター形式、会期などの検討も必要とされよう。また、九州大より救急蘇生の教育法に関するプレゼンテーションが行われた。大会間近の提案にて第2日昼休みでのプレゼンテーションとなったが、熱心な取り組みにて参加者の注目を集めた。

本学会は、会員、実行委が手弁当で企画、実施する手作りの学会であることに特徴がある。今後、医学教育への関心の高まりにより、学会活動のさらなる活発化が予想されるが、これに対応しうるより広い会場などの準備を必要とするかもしれない。この場合、手弁当だけで運営できるのか、学会運営の経済的基盤の確保などの再検討も必要かと思われた。

本学会は、盛会で、おのおのの立場より、現在の問題点、工夫などが真剣に語られた。2日間、朝より夕方までフルに、さらに懇親会にも多くの方が参加され、熱気ある情報の交換が行われた。新しい世紀に向けて、望ましい医学教育とは何かを求めて集った、活気ある大会であった。

^{*1} 32nd Congress of Japan Society for Medical Education (2000) Tohoku University School of Medicine
キーワード：21世紀への医学・医療、良医、生命科学、臨床修練

^{*2} Takeshi SASAKI 東北大学医学部